



今年も全国の小学校6年生を対象として、国語と算数、児童質問紙による全国学力・学習状況調査を実施し、結果が届きました。両教科ともこれまで基礎・基本と活用に分かれて2時間で調査していたものが、1時間にまとめられました。校内で結果について考察するとともに、本校児童の生活や学習に関する実態、これまでの取組の成果や反省、今後の改善点について検討しましたので報告します。

全国平均正答率を上回る好結果!!

これまで本調査が始まって以降、本校児童の正答率については、年々、県平均との差が縮まる傾向にありましたが、両教科共に全国平均を超えることはありませんでした。しかし、今年度は右のような嬉しい結果となりました。

この要因の一つとして、昨年度の学校全体の取組であった「聞くこと」の指導と生活や学習に向かう気持ちのベースとなる自尊心を高めることに重点をおいた授業改善や指導法の向上に力を入れてきたことが挙げられると考えています。

一方、課題につなげるべき気にかかる結果も見られました。

正答率の全国・県平均との比較

	国語	算数
本校	64	69
全国	63.8	66.6
県	60	66
県比較	△4	△3

(△高い)

学習指導要領の領域別平均正答率について

国語

一般的に無回答率が低く、どの設問に対しても最後まで意欲的に取り組んでいたことが表れていました。「話すこと・聞くこと」に関する領域について全国平均よりも若干高かったことに加え、「読むこと」に関しては、全国平均より6ポイント(県比較9ポイント)近く上回っていました。

しかし、「資料を活用しながら相手に自分の考えが伝わるように分かりやすく書く」ことに関しての課題が顕著になりました。

算数

国語と同様に無回答率が低く、意欲的に取り組んでいました。領域別の「数と計算」「図形」に関しては、ほぼ全国平均と同じでしたが、「数量関係」については全国より3ポイント以上、「量と測定」については8ポイント近く上回っていました。

唯一、大きく落ち込んでいた設問を2学期早々に学年全体で再試験を行いました。1問だけであったためか、たいへん好成績でした。



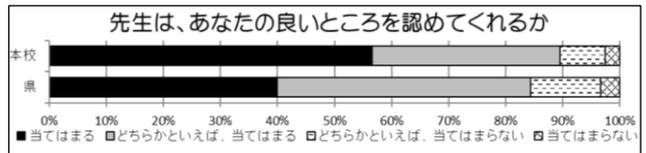
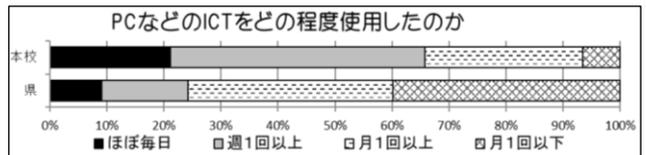
児童質問紙において特徴的なところ

良かった点

ハード面においては、現在の新校舎建設時に児童用・学級用・校務用の各PCを始めとして電子黒板や実物投影カメラ等の機器が整備され、学習において日常的にICT活用ができる、県下的にみても恵まれた環境が整えられた中で学習に取り組んでいます。

他方、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に対して、当てはまるが半数を超え、どちらかといえば当てはまるを合わせると9割を超える結果もあり、教職員から肯定的に認められている実態とお互いに思いやりのある雰囲気の中で学校生活を送れている様子も明らかとなっています。

一方、家庭環境についても「早寝・早起き・朝ごはん」など、基本的な生活習慣の定着が年を経るごとに改善されてきている状況もみられ、家庭における協力にも感謝しているところです。



総括 ここ数年間、本校における学力・学習状況は徐々に上向き傾向にあります。

これまでと同様に本調査で明らかとなった諸課題については、全教職員で共通理解を図る研修会を足がかりとして、日々の授業改善の具体策や全校体制での系統性ある取組の確立、新たな視点での工夫ある取組を着実に進めてまいりたいと考えています。